

第1回 学校運営協議会

令和4年4月26日（火）
午後1時15分～
浜松市立中川小学校 会議室
進行：教 頭



【新しい担任の先生との出会い】



【入学式】



【さやえんどうの皮むきボランティア】



【1年生のお助け6年生】

浜松市立中川小学校

次 第

進行（教頭）

- 1 はじめの言葉
- 2 校長あいさつ
- 3 委員任命書、学校支援コーディネーター委嘱書交付
- 4 自己紹介
- 5 学校運営協議会について
- 6 会長の選出・副会長の指名
- 7 議長の選出
- 8 熟議
 - （1）令和4年度学校運営の基本方針について
 - （2）夢育やらまいか事業に対する意見書について
- 9 連絡
 - 次回の開催日時
 - ・第2回学校運営協議会 7月 8日（金）
 - ・第3回学校運営協議会 12月 1日（木）
 - ・第4回学校運営協議会 2月 8日（水）
- 10 終わりの言葉

R4 学校運営協議会について

浜松市立中川小学校

1 目的（浜松市学校運営協議会規則より）

児童生徒及び地域の現状並びに学校の課題を捉え、特色ある学校づくりを推進するとともに、未来創造への人づくり及び市民協働による人づくりに資することを理念として、浜松市教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の対象学校の運営への参画を促進し、もって当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図ることを目的とする。

2 協議会の役割

以下の事項について協議を行う

- (1) 対象学校の運営に関すること。
- (2) 対象学校の運営への必要な支援に関すること。
- (3) 児童生徒の健全育成に関すること。

※ 協議の結果について、保護者及び地域住民等の理解を促し、主体的な参画並びに支援及び協力を得られるようにするため、保護者及び地域住民等に協議の結果に関する情報を積極的に提供するよう努める。

3 組織

◇ 学校運営協議会委員（うち会長1名、副会長1名を選出）

No	氏名	No	氏名
1	田開 光治	6	巨島 善道
2	大谷 寿浩	7	内藤 亜喜子
3	内山 有香	8	谷川 美帆
4	山岡 照彦	9	井上 真史
5	石原 邦一郎	10	高柳 弘行

◇ 学校担当者（1名）

学校側の窓口として、連絡・調整 及び、補助

◇ 学校支援コーディネーター（1名）

- (1) 配置校における支援のニーズの把握に関すること。
- (2) 配置校における支援に活用できる人材情報等の集約に関すること。
- (3) 配置校を支援する個人又は団体との連絡及び調整に関すること。
- (4) 配置校における支援に必要な人材情報等の提供及び実施に関すること。
- (5) 配置校における支援に関する地域等への情報提供に関すること。

◇ CSディレクター（1名）

- (1) 協議会の会議運営に関すること
- (2) 協議会委員との連絡・調整に関すること
- (3) 通学区域の保護者・地域住民からの意見収集に関すること
- (4) 他校及び市外先進地の取組等の情報収集に関すること
- (5) 協議会の協議内容についての情報発信に関すること
- (6) その他、協議会の運営に関することで、委員会又はディレクターを設置する学校の校長が必要と認めること

4 学校運営協議会の予定

- 第1回 4月26日（火）13：15～
- 第2回 7月 8日（金）13：15～ ※5校時授業参観
- 第3回 12月 1日（木）13：15～ ※5校時授業参観
- 第4回 2月 8日（水）13：15～ ※5校時授業参観

I 学校経営にあたって

およそ2年に渡る新型コロナウイルスの感染は、今も引き続き起きている。ワクチン接種や経口薬の開発により、対応策はあるものの、完全に収束するには、まだまだ時間がかかる様相である。この2年間、学校では、各活動・行事の内容や運営の方法の変更、さらに、授業に関しては、活動内容や交流の制限、日常生活においても、新しい生活様式を取り入れ、給食への配慮や休み時間の短縮、清掃に関する対応の変更など、「変化・変更」を行ってきた。しかし、そこで生まれたものは、今までの学校の「あたりまえ」を見直し、現状の把握、そして着実な変化への対応であった。今後も、学校経営構想を実現させることを主眼に置きながらも、状況に応じ、最も良い方法を選択し、柔軟に対応をしていく。

新学習指導要領が完全実施され、3年目を迎える。「社会に開かれた教育課程」「資質・能力の育成」「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善」等を目指して各校で教育活動が進められ、理念や趣旨が定着しつつある。一方で、コロナ感染の状況もあり、計画を前倒しして、GIGAスクール構想の推進も加速している。

浜松市においては、第3次浜松市教育総合計画「はままつ人づくり未来プラン」後期（令和2～令和6年度）の3年目を迎える。新学習指導要領を受け、目指す子供の姿を「自分らしさを大切に作る子供」を根底に、「夢と希望を持ち続ける子供」「これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供」と設定し、キャリア教育を核とした教育を推進している。さらに、国の意向を受けて、一人一台のタブレット型端末の支給を行い、ICT環境の整備やICTを活用した授業の充実を図っている。

本校は、創立149年、来年度は150周年を迎える伝統校である。「中川の子供のために」という子供を中心に据えたゆるぎない教育を伝統として引き継ぎ、家庭や地域の協力のもと、教職員一丸となった努力によって、大きな成果をあげてきている。そして、日々安定した教育活動が展開され、子供たちが着実に育っている。豊かな自然や地域の教育資源を活用し、勤労生産的学習や体験活動等を通し、自然や地域を愛する心や命を大切に作る心、感謝の心、ともに力を合わせて取り組む心が育まれている。反面、自分に自信をもつことができず、自分から積極的に事象にかかわることや自分の力で物事を解決することに苦手意識をもっている子供たちも多く見られる。

これらのことから、来年の教育目標を「夢をもって 自分らしく はつらつと生きる子」とし、教育課程では、これまでの中川小の教育の方向性を保ちながらも、以下の4つの項目を念頭に、重点化と精選を図り、教育目標にある「はつらつ」とした姿に迫ってきたい。

(1) 主体性を育む（合言葉「自分から」「自分の力で」）

子供たちに、自ら事象にかかわる主体性を育てていく。「自分から」かわり、「自分の力で」解決していく経験は、これからの社会や未来を生き抜くために必要な資質・能力となっていく。さらに、その経験は、自分の良さや可能性を見出し、自己肯定感を育む。そして、将来の自分の姿に夢や希望を見出していくことができる。

(2) 授業の充実（資質・能力を育む授業 ICTを取り入れた授業）

学校において、確かな学力の育成は本務である。新学習指導要領が求める資質・能力を明確にし、「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業改善を中心に様々な手立てを講じる必要がある。また、その手立ての一つとして、ICTを活用した授業を充実させることも重要である。

(3) キャリア教育 (課題対応能力「挑戦する力」の育成)

これまで本校では、自己理解・自己管理能力(見つめる力)、人間関係形成能力・社会形成能力(かかわる力)を育ててきた。これらの積み上げに、課題対応能力(挑戦する力)をさらに積み上げる取組をしていく。課題を分析・処理し、解決をする学びや経験は、将来、困難なことであっても、自分で解決していく力になるであろう。また、(1)にある主体性を育むことにつながるとも考えられる。

(4) ふるさと中川 (CSの立ち上げ、地域とのつながりをより深く)

社会に開かれた教育課程の実現に向け、コミュニティ・スクールを立ち上げていく。家庭や地域の声を学校運営に反映させるとともに、恵まれた地域の資源や人材を学校運営に生かしていく。学校だけではできないことに協力していただくとともに、教員の負担軽減にもつなげていく。

II 学校経営構想

1 学校教育目標

「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

2 めざす子供の姿

【な】：なかよく思いやりのある子(徳)

【か】：かんがえを深め 学び続ける子(知)

【が】：がんばりがきき ねばり強い子(知・徳・体)

【わ】：わたしもあなたも健康な子(体)



3 経営の理念

「子供も職員も楽しい学校」

4 めざす学校の姿

(1) 子供が安心して楽しく学び合う学校

○未来に向かって、夢や希望をもつことができる。

○学級が(集団が)耕され、正義と高まる力が存在する。

○「一緒に学ぶ」楽しさ、「分かる」楽しさを味わうことができる。

○大切にされていることが実感でき、安心して自分の力を伸ばすことができる。

(2) 教職員が持ち味を発揮し合い、尊敬し合い、高め合う学校

○子供にとって、「分かる・楽しい」授業を行う。

○「チーム中川」の一員として、教職員一人一人が自分の持ち味を発揮し、互いに協力し合い、尊敬し合う。

○プロの教職員として常に専門性と指導力を磨き、深い子供理解と情熱、寄り添う心をもって向き合い、自分の仕事を子供の成長として実感する。

(3) 家庭・地域から信頼される学校

○保護者に寄り添うことによって、子供を取り巻くよりよい環境づくりに努める。

○学校を積極的に開き、子供の姿で信頼を得る教育活動を展開する。

○コミュニティ・スクールを立ち上げ、趣旨を保護者・地域に説明して理解を得るとともに、「協働」への意識を促していく。

《徳》「なかよく思いやりのある子」を育てる

◎三つの宝（挨拶・掃除・歌声）を輝かせる主体的な活動

○いじめを生まない「寄り添う」土壌づくり

子供たち自身に「人とかかわる力」「好ましい対人関係を構築する力」を身に付けさせ、子供たち自身でいじめを生まない土壌をつくっていけるよう支援する。

○心を育てる特別の教科道德の充実

○地域に学ぶ体験活動

米づくり・食育 その他

《知》「かんがえを深め学び続ける子」を育てる

◎主体的・対話的で深い学びのある授業づくり（校内研修との関連）

・新学習指導要領の確実な実施（教科等主任が主導）

・中川の子供たちに必要な力の確認、具体的な取り組み

○学習の基礎・基本の定着

○ICTを活用した授業の充実

・場面の設定、効果的な活用

《徳・知・体》「がんばりがきき、ねばり強い子」を育てる

◎主体性・粘り強さ・調整力を磨く各種活動

・学習、日常生活、行事

《体》「わたしもあなたも健康な子」を育てる。

◎主体的な安全・健康・運動習慣づくりー①③

・自分の身を自分で守る

・自分の健康を自分でつくる

・自分の体を自分で鍛える

（防災・防犯・事故0、食育推進、運動の日常化）

<「チーム中川」の一員としての7か条>

①学校運営への参画意識と実践・・・分掌業務を誠実に、自分の学校

②協力・協働の姿勢・・・・・・・・報告・連絡・相談の機能化

和やかな雰囲気と互いに気遣うチームワーク

※同僚性と自立性

③高いレベルの倫理観、自覚・・・人格の完成・形成にかかわるという重み

④自己の教師力の向上・・・・・・・・みんなで磨き合う校内研修 常に自己研鑽

⑤危機管理・・・・・・・・生命・安全を第一に

※子供の生命にかかわることは全てに優先

⑥不祥事根絶・・・・・・・・信頼は誠意と実行・実績の積み重ねによって

得られるもの、自分事として

⑦健康管理・・・・・・・・自己管理をきちんと 無理をしない

令和4年度 浜松市立中川小学校グランドデザイン

はままつの人づくり 目指す子供の姿

- 自分らしさを大切にする子供
- 夢と希望を持ち続ける子供
- これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供

細江中学校区で目指す子供の姿
夢と希望をもち、力強く歩み続ける子

未来創造への人づくり

- 【めざす学校の姿】**
- 子供が安心して楽しく学び合う学校
 - 教職員が持ち味を発揮し合い、尊敬し合い、高め合う学校
 - 家庭・地域から信頼される学校

学校教育目標

「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

なかよく思いやりのある子（徳）

- ◎三つの宝（挨拶・掃除・歌声）を輝かせる活動
- いじめを生まない「寄り添う」土壌づくり
- 心を育てる特別の教科道徳の充実
- 地域に学ぶ体験活動

かんがえを深め学び続ける子（知）

- ◎主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
- 学習の基礎・基本の定着
- ICTを活用した授業の充実

わたしもあなたも健康な子（体）

- ◎主体的な安全・健康・運動・習慣づくり
- ・自分の身を自分で守る
- ・自分の健康を自分でつくる
- ・自分の体を自分で鍛える
(防災・防犯・事故0、食育推進、運動の日常化)

がんばりがきき、ねばり強い子（知）（徳）（体）

- ◎主体性・ねばり強さ・調整力を磨く各種活動
(学習、日常、行事)

中小キャリア教育

人間関係形成・社会形成能力
かかわる力

課題対応能力
挑戦する力

キャリアプランニング能力
つなげる力

自己理解・自己管理能力
見つめる力

深い愛情を注ぎ、認め、成長を支える家庭

参観会・教育相談・学校ボランティア・
生活モニター・PTA活動

コミュニティスクールの開設

学校運営協議会・学校支援活動
(開かれた教育課程)

温かく見守り、声を掛け、学びを支える地域

中川の子供を育てる会・民生委員・児童委員連絡会・地域防災連絡会

市民協働の人づくり